

広義のEGAP (English for General Academic Purposes)とTOEFL®テスト

2025年5月1日

EJC 理事長 岡田毅

2022年5月26日に発足したEJCの設立趣旨の中に：

「…EGAP（一般学術目的の英語：English for General Academic Purposes）運用能力の涵養は、日本の学生・生徒が世界の学習者と肩を並べて学ぶ上で必要不可欠であり… EGAP力獲得のために… TOEFL®テストと… ETSが提供する世界最高レベルの評価基準・評価方法を活用し…」とあります。

<https://www.toefl-ibt.jp/educators/institutions/egapjapan/info/>

このEGAPを、もう少し分かりやすく広く定義するとすれば：

The English language skills required for undergraduates to successfully engage in their university activities

(学部生が大学生としての様々な活動を進めていくのに必要な英語力)

となるかと思います。

EGAPを「大学という環境の中で、学術的な経験の浅い学部生たちが日頃日本語で行っている様々な活動を、英語を使ってもできるようになるための能力」

と見なせば、それには：

◆ 高度な学術的活動というよりはむしろ学部生にとってもっと身近なスキル：

- 日々の授業での文献の読解(reading)や要約リポート(summarizing / paraphrasing)
- 小論文の作成(essay writing)
- 授業中のノートとり(listening / note-taking)
- クラスメイトや教員との議論(discussion / speaking)
- 自分の意見のプレゼン(presentation)

などの他に

◆ (business personとしてではなく) 学生としての多岐にわたる話題：

- 授業の履修に関する情報交換や大学事務とのやり取り
- 学生生活をエンジョイするための仲間付き合い
- アルバイトや休暇、留学や将来の夢についての話題

などを扱うスキルが考えられます。

英検、TOEIC、IELTS等の優れたテストが数多く存在しますが「学部生の大学生としての基礎的な活動を反映し、それを支えるための英語能力」を測定するには、TOEFL®テストが最適と考えられます。

技能別の評価結果に基づいた、より質の高い英語教育を目指すためには、このようなEGAPの柔軟な定義と、TOEFL®テストとの関係を、皆様の共通理解としておくことが必要だろうと思われれます。